

闘いは新たなステージに JAL争議納得いく解決を

熱気溢れ支援の輪広がる 早期全面解決を目指し総決起集会

早期全面解決を目指し総決起集会

「たたかいは新たなステージに」をスローガンに「JAL争議の早期全面解決をめざす総決起集会」が12月8日、東京・文京区民セ

ンターで開催された。



闘う決意をこぶしに込める争議団

会場を埋め尽くし、オンライン参加を含み550名の結集で闘いの意義と展望を持った集会となった。

JAL争議団の闘いを記録したDVDが上映され、合唱団フェニックスが『あの空に帰ろう』を披露。

争議団の山田純江さんの司会で始まり、集会呼びかけ人の宮垣忠さん(神奈川県連絡会)が「モノ言う労働者排除と労働組合弱体化を国交省や裁判所が容認して行ったJALの整理解雇は不当労働行為だ。解雇自由な社

会にさせないために、JAL争議の早期全面解決を全力で闘い取ろう」と挨拶した。

続いて、JHUの山崎秀樹書記長が争議の現状を詳細に報告。超党派の国会議員14名のメッセージも紹介。

熱い連帯あいさつ
東京地評の井澤智事務局長は「12年の闘いで積み上げてきた運動はこれだけの熱い力を持つている。一人でも闘う仲間がいる限り支援する」と述べた。
東京全労協の大森進議長は「闘う組合潰しを狙った整理解雇。悪

辣な攻撃を絶対許さない。闘う当該が限られた支援を受け、勝利のために輪を広げ、東京総行動など闘いを強化していく」と訴えた。

次に、4名体制となった弁護士から指宿昭一弁護士は「2労組との終結の過程でJALは中立保持義務違反を行ない新たな火種を作った。国交省、JALの社会的責任を追及し、早期解決に全力を上げる」と熱弁した。

岡田尚弁護士が「新しい不当労働行為救済申立てをした。道理ある要求、共感を呼ぶ闘いだ」と述べた。上条貞夫弁護士、加藤桂子弁護士も共に闘う決意を明らかにした。

客乗争議団の鈴木圭子団長は「共に闘うのは、労働者の責任と責任、闘いの重大さを再認識。共に闘ってくださる皆様にも納得のいく解決を獲得しなければこの争議は終われません」と述べた。

駒井高之JAL争議を支える京都の会事務局長を始め、全国から駆けつけた、岡山、福岡、徳島、東京北部の仲間から力強い連帯のあいさつがあった。

争議団から決意表明
客乗争議団の鈴木圭子団長は「共に闘うのは、労働者の責任と責任、闘いの重大さを再認識。共に闘ってくださる皆様にも納得のいく解決を獲得しなければこの争議は終われません」と述べた。

乗員争議団の近村一也団長は「12年前に解雇予告通知が発信され、JALにあなただの活躍の場は無いと解雇。許せない。闘いませ！」と怒りの発言。

JHU山口宏弥委員長が「闘いは新たなステージを迎え、組合員も32名になり、弁護士体制も強化して取り組んでいるが、社会全体への運動の拡がりは、まだ不十分。労働組合の闘いは『平和と民主主義』の旨でもあり、納得できる解決を目指して力いっぱい闘う決意です。引き続きご支援を」と訴えた。
千代田区労協の小林秀治議長は「闘う組合潰しを狙った整理解雇。悪